

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員と協議して、地域密着型のサービスとしての運営理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日行う朝礼の中で理念を読み上げたり、日頃目に付く業務日誌や詰め所などに張っている。よって、全職員に理念の確認、共有が日常的に行われている。また、毎月行っている例会で日常の業務についての振り返りを行っている。しかし、まだ十分とはいかない。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	重要事項説明書に運営理念は掲げており、契約時にご家族へ説明を行っている。また、ホームの玄関やホームページ・お便りなどで掲示し、家族会の中で説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設内の交流や、祭りや交流会など施設側主催の諸行事の中での交流は行えている。しかしその他で外の地域の方々との交流はなかなか行なえていない。立地的にも困難である。地域の自治会の方々との検討中。	○	自治会の方々と協力し、当施設を幅広く認知して頂く為、近隣地域を対象に他の部署と協力しながら学習会や交流会を地域の公民館等を利用し行なっていく予定。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の1周年記念行事を開き、地域の学校のブラスバンドをお招きしたり、また、秋祭りを開催し、交流と活性化を図っており、地域との関係づくりは進んでいる。	○	所内で催し物を開催したり、地域の方をお招きすることはできても、こちらから地域に出向くことがなかなか出来ないのが現状である。今後、少しでも参加出来る様検討していきたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	別館にある大浴場の浴室を開放し地域の方々に利用していただき、生き生きサポート教室という健康促進の為に取り組みをデイサービスと共同でおこなっており、体力作りや仲間作りを目的に取り組んでいる。	○	他の部署と共にしているが、当ホーム独自の取り組みではない為、今後、当ホーム独自の取り組みを検討していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義・必要性は十分に理解しているが、課題が大きく、管理者も新任の為、手探り状態であり、具体的で抜本的な改善策を打ち出すことができていない。	○	前年と今年度ひ比較していただき、その結果を基に更に理解を深め、更なる改善に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を実施している。ユニットごとの情報を提供すると共に、意見交換を行っている。その中ででた苦情なども真摯に受け止め、改善に取り組んでいる。自治会の方々より、ボランティアの紹介をして頂くなどよりよいホームになるようお力添えをいただいている。	○	今後も、会議の中で出された意見を大切に、サービスの向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長や事務長は窓口との連絡を取り合っているが、管理者が連絡を取り合う事はほとんどなく、請求業務上の不明な点を連絡する程度。集団指導へは積極的に参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者及び計画作成担当者(ケアマネージャー)は社協が提供している実践者研修を受け、その講義の單元の中で、学習を行った。必要性の有無については現在該当する入居者様はいらっしゃらない。	○	職員全体が熟知してるとは言えない為、今後全体で学習できる場を作り、更には外部への研修に積極的に参加させたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の実践者研修等で学んだ職員が講師となり学習会を実施したが、十分ではない。ご家族様の虐待等は見受けられず、事業所内においても虐待はないと確信しています。	○	今後も虐待等が起こらないように、学習を進め、職員同士の監視、注意等ができる職場作りが必要であると思われる。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、各書面を事前にお渡しし、説明を行っている。入居時に署名・捺印を頂き、その際不安や疑問について説明し、了承を得ている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満については管理者で解決できる事については速やかに対処。しかし、記録までは行っていない。又、施設長へ報告もしていない。	○	細かい事も記録に残していく。よう指導を行っていく。又、合わせて施設長への報告も行う。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや職員の移動等は毎月発行している新聞に記載し、ご家族の来所時の報告をおこなっている。健康面に関しては新聞以外に受診時はその都度事前と事後報告を行なっている。	○	月1回の新聞による定期的な報告以外に、ご家族に合わせ電話や電子メール等を活用し、連絡頻度を高めていく必要があると思われる。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に一度の家族会を設けている。また、意見箱の設置をし、意見を反映できるようにしている。	○	幸いな事に苦情はだされていないが、今後、十分にあり得る為、出された苦情を共通の認識とする為、掲示等の取り組みが必要。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例の場として月1回の部門会議がある。会議報告について全員に文書で返している。また、会議の際に協議したい内容を記入するノートを作成し、活用している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	。急な変化等は午後の時間を利用し、勤務者で集まり協議をしている。また、要望に答えられるよう必勤務調節をし対応している。その他、何かあれば他の部署へ応援を依頼する事は可能。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常的に他の部署と連携しており、利用者様にとってもすでになじみの関係ができつつある。その為、大きなダメージはないと考えており、職員の視野を広げ、ストレスへの配慮を考えると異動については必要であり、慣れ合い防止や客観的な判断が出来る為、施設内においてメリットも多い		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者による積極的な研修参加ができ、それに伴う情報の提供はできており、学ぶ雰囲気作りは出来てきているが、計画的な参加にはなっていない。	○	外部の研修に参加できるよう、更に学べる職場の雰囲気作りに努め、また各段階に分け教育計画を作成し、段階別に一定の研修項目の策定が必要

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政や地域の他の事業所主催の学習会へ参加はしているが一部の職員に偏っており、全職員が均等に参加するまでには至っていない。	○	全職員が均等に学習会に参加できるよう、意識付けだけではなく、参加させる雰囲気や体制作りを勧める。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的面接をおこなっており、運営者と管理者はメンタルヘルスの学習会へ参加している。又、発散する機会を持てるよう勤務希望を可能な限り通し連休を取得可能にしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々に各委員会を担当していただき、責任をもって取り組んでもらっている。又、担当制を導入し、受け持ちの入所者様を個々で見ている。		
	<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご自宅を訪問し、御本人、また、ご家族の要望を聞き、受け止めるよう努力している。その他、入居して間もない頃は積極的に話しかけ情報収集を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご自宅を訪問し、御本人、また、ご家族の要望を聞き、受け止めるよう努力している。その他、入居して間もない頃は積極的に話しかけ情報収集を行っている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設は複合施設なので、相談者にとってもっとも良い方法を管理部と共に相談しながら共に検討できるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当事業所内の小規模多機能施設から入居される事が多い為、入居前より頻りに訪問や当ホームに来て頂き、レクリエーション等を共にすることでなじみ関係を少しずつ築いている。又、入所後も小規模多機能施設より訪問等あり。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の思い出話に耳を傾けながら、人生の先輩として尊厳を持ち、レクレーション、家事等で御本人の持っている知識、能力を学ばせていただいたり、一緒に活用するよう気がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と頻会に連絡をとり、コミュニケーションをはかっている。また、行事や野外レクを作る事により、御本人・ご家族・職員が共にあつまる場を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	介護疲れにて関係が悪化しているケースも多く、双方の精神的安定を配慮している。しかし、御本人様の立場に立ち、共により関係が気づけるようお願い、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前、転々とされている方が多く家族に限られることがほとんどである。自分の居場所はここしかないと思って入居されている方が多い。一部であるが、入居前の自宅周辺を散歩し、関係維持をしたケースもあり。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	現在の利用者様は寡黙な方が多く、困難だが、レクリエーションや体操等で共通の話題を提供し、職員も含めた複数で会話をしよう心がけている。また、外出時も数人で出かける事により、会話を促している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現時点ではこの様なケースは少ないが、本人様へのお見舞いやご家族への相談を行っている。しかし、一例しかなく、短期間であった為、可能であったといえる。	○	今後、このような事例時、中長期的にサポートできる体制づくりが必要と思われる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思を率直に伝える事の出来る方についてはそれを真摯に受け止め、希望に添えるよう討議をしている。認知症などで自己主張が困難な方の介護拒否については、その原因は何かを予測しケアの改善を行い、評価している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を家族側にも協力していただき、情報の把握に努めた。また、CMや入居前に利用していた施設と連絡を取り、情報を提供していただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人の『時間』を大切に、職員本意の時間設定をせず、したい時にしていただくことに努めている。また、例会でカンファレンスを行い、その人の現状把握及びケアの改善を図っている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の会議にて利用者一人一人ケアのあり方を職員で話し合う、ご家族面会時相談する、関係医療機関との連携等により、介護計画を検討する等を行っているが、計画書をすぐに作り変えるには至らず。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が急変、レベルダウンが明らかである場合は変更あるも、計画書が現状に追いつけない実態がある。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録により情報を共有し、実践できている。毎日の記録を一週間ごとにまとめ、それを月一回のカンファレンスに反映させ、介護計画の見直しに生かしている。	○	記録の仕方について、入居者の言葉、表情をイメージできる書き方を工夫しているが、まだまだ十分とは言えないので、今後も学習し検討が必要。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地内で複合施設となっているので、入居希望者に合った施設を、常時検討されている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	イベントの際、地域の方々、ボランティアに参加して頂き、利用者が社会から孤立することのないよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所からの依頼があるときは直ぐに電話での説明や、ファックス等で当事業所の資料を送ったりと対応をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関から月2回の定期往診及び、週1回の定期訪問看護により支援。他にも週1回の歯科往診と適切な医療を受けられるようにしている。往診外の受診は、ご家族が定期的に受診に同行。緊急時は、職員同行が多いが、ご家族協力得られる場合はご家族に同行して頂いている		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医者にはいつでも連絡をとれるが、認知症の専門医との関係は築いているとは言いがたい。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、看護師の常勤勤務者がいない為常時とは言い難いが、週1回の訪問看護を依頼しており、健康管理を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際は、スタッフが定期的に病院へ出向き、利用者の現状を把握すると共に、病院関係者との情報交換を行っている。また、新たな疾患が発生した場合は、それについての学習の依頼などもしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医と看取り指針を作成し、ご家族へ説明している。しかし、今日まで前例がなく、繰り返し話し合っているとは言えない。	○	現在の指針を再度見直し、医師等の連携先と繰り返し協議が必要であり、定期的な場の確立が必要。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合について「できること・出来ないこと」の見極め中。看取り介護を行った事業所より事例を報告会実施やターミナルケアの学習会参加等で心構えを作りつつある段階。ターミナルケアのマニュアル作成中。	○	ターミナルケアの必要性の再学習し、関係職種との連携を深め、マニュアルを完成させたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	併設の施設から入所される場合は情報交換を行い、事前に入所者と共に訪問し、顔なじみになるよう心がけ、入所後も以前の施設への訪問実施。退所の際には情報提供を行い、入所後の電話での相談にて対応している。		
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	努力しているが、100%とはいえない。記録・個人情報に関しては常に意識し、取り組んでいる。	○	いつでも、どこでも・だれでも一人一人の誇りやプライバシーを尊重し、適切な言葉使いが出来るよう、日々学習等が必要。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の言葉かけに○○して下さい。○○しましょうなどの指示的な言葉かけがまだまだ多い。	○	指示は言葉での抑制であり、拘束にあたる事を再度学習し、常に選択支を持たせた声かけをするよう徹底が必要。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	半数以上の入所者は入所前より臥床傾向にあり、きついから寝かせて欲しい。気分が悪いから休みたい等の要望が多く、離床をどう促すかの対応に追われている。又、何事に対しても同意を得るようにしている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院に関し、行きつけがあればご家族にお連れして頂いている。ご家族が困難な場合はお連れしている。月2回の訪問美容を利用し、希望により利用されている。服装は基本的に選んで頂いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の厨房は外部に委託しており、管理栄養師が常駐しており、施設内に設けている給食委員会にて定期的に要望を出し、工夫して頂いている。ホーム内では汁物とご飯を作成。月2回利用者様と共に食事を作る機会を設け、要望に応えられ、手伝っていただけるように取り組んでいる。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ほとんどの入所者様がお茶を好まれ飲んで頂いている。その他コーヒーや紅茶昆布茶等も準備しているが、ほとんど飲まれない。飲酒される方もいない。おやつに関しては要望がある場合は手作りにて行っている。また、ご家族へお願いし		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的にトイレ誘導を行い、おむつを使用せず可能な限り布パンツにて生活できるよう対処している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に、10時～12時・14時～16時くらいの時間帯で、1日おきに入浴していただいているが、要望がある場合は対応出来るよう努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日座っている時間が長い方もおられるので、声を掛けたり、昼食後は居室で1時間ほど休んでいただくようにしている。また、就寝前には足浴をされる方もおられる。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1日の生活が単調にならないよう、大きな笑い声に包まれるような暮らしを願い、その方らしく普通の生活と言えるのか自問自答している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお小遣いを持っている方もおられ、スタッフと一緒に買い物の機会を作ることもあるが頻度は少ない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に行っているとは言い難いが、諸行事や買い物など、利用者からの要望に合わせて戸外に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見や買い物ツアーや諸行事の見物など、出かける時はご家族にもお知らせして、可能であれば同行して頂いている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所のものを使用し、電話かけや取次ぎはスタッフがしている。一人で可能な方は自由にされている。手紙などのポスト投函はスタッフが支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも訪問を受け付けている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前まで、離床センサーを使用していた利用者がいたが、討議を重ねて、現在使用している方はいない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練については、施設全体で行っている。ホームについては、特に夜勤時のマニュアルを出勤時に確認している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時のマニュアルを作成し、スタッフ全員が対応できるようにしている。また、AED使用の学習会も施設内で開かれている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	他部署と合同で消防訓練や学習を行い、それぞれの役割を作り、円滑に避難が出来るようにしている。また、連絡網を作り、夜間などにすぐ応援を呼べるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現在は見守りに徹底して、離床センサーなどの機材は使用していないが、やむを得ない場合はご家族と相談し、検討するようにしている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異常に気付いた時、判断に迷う場合は看護師や連携病院に連絡して指示を受けている。記録、口答での引き継ぎを徹底している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬ミスを防ぐ為薬局より一包化してもらい、1袋ごとに名前と時間を記載している上、スタッフで色分けして、誤薬がないよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立は管理栄養士が行っている。水分補給に努めたり、便秘の方については医師と相談して薬を使用している場合もある。運動不足は否めない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内のチェック、口腔ケアに努めている。また、必要とされる場合は、歯科往診を依頼している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事時に食事・水分摂取量を記録しており、少ない方にはその人に合った方法で摂取を促している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	所内に感染委員会があり、各部署より代表を出して構成し、討議をしている。また、インフルエンザについては職員、利用者全員が予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理については特に注意している。手洗いの徹底や、まな板や台拭きなどのハイター消毒、食器等は乾燥を徹底など。また、月1回所内で給食、委員会を開き、食中毒予防などの討議を行っている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の玄関があり、2Fに上かってホームの玄関がある。バリアフリーで、座って靴の着脱ができるよう椅子を置き、安全面での配慮はされていても、家庭的とは言い難い。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スクリーンによる日差しの調節を行なっている。ガラス戸の高さが天井までの高さがあり、外を十分に見渡すことが出来るので、四季を感じることができる。又、職員の手作りによる飾りつけ等で、季節感を感じることができるよう創意、工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、椅子等各所に置いたり、居間には広い畳のスペースが設けられ、思い思いの場所で過ごすことができる。	○	食事をするスペースと、くつろげる居間との区切りをつくり、目的に応じた場所作りをそたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、小物等、ご家族と相談しながらご本人の好みのものや使いやすい物をもちこんでいただく。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候の良い日は窓を開け空気の入替えに努めている。 空調は利用者の体感を尋ねながら調節し、冬場は乾燥を防ぐため洗面台に水を溜める等の工夫をしている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面はクッションの入った敷物なので、衝撃が和らげられ、すべりにくく疲れにくい。トイレ、廊下のですりは十分である。バリアフリーなので、一人一人にとってとなると難しいが、より安全と言える。只脱衣所のですりが不備。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室の入り口に名前を銘記。 居室にカレンダーを貼り日付けを確認していただく。 タンス等収納物品名のシールを貼りご自分の持ち物を確認していただく。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回り、ベランダの散歩を楽しんでいる。 ベランダにプランターを置き、花、野菜を作り、水やりや収穫の楽しみをもっている。	○	天候が穏やかな日は、食事、お茶等に芝生を利用したい。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 》①毎日ある 《 ○ 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 ○ 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない